

同期化からによる主な本部のアクティブまたはスタンバイ データベースを再製するプロシージャ

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[問題](#)

[トラブルシューティング](#)

[解決策](#)

[確認](#)

概要

この資料は一次データベースからのスタンバイ データベースの再製によって主なネットワークのデータベース複製か同期に関する問題を解決するためにステップバイステップ手順を記述したものです。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- 一次データベースの SWITCHOVER_STATUS が解決できないギャップが壊れる宛先にあるときだけセカンダリ データベースを再製するのにこのプロシージャを使用して下さい。
- 一次データベースが読まれた WRITEmodes に WRITEand 読まれたセカンダリ データベースにあるあるようにして下さい。
- 正しいプライマリおよびセカンダリ主な中央ゲートウェイ/データベースを識別するようにして下さい。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- 主な中央リリース 1.2 以上に
- Oracle Database 11G リリース

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始して

います。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

背景説明

1. 一次データベースの `switchover_status` を知っているのにこのコマンドを使用して下さい:

```
SQL> select switchover_status from v$database
SWITCHOVER_STATUS
-----
UNRESOLVABLE GAP
```

注: 次に Geo 主な中央 HA スイッチオーバーは失敗し不意に主な本部 GEO HA システムや破損データベース ロールのステータス (primay またはスタンバイ) およびあなた最後のアクティブ/待機状態によってプライマリかセカンダリを再製する必要残します。

注: 他のすべてのケースに関しては、データベース複製問題を解決するために Cisco TAC の SR を開いて下さい。

2. プライマリおよびセカンダリ データベースの現在のモードを知っているのにこのコマンドを使用して下さい:

```
SQL> select open_mode from v$database;
```

3. プライマリおよびセカンダリ データベースの `ORACLE_SID` を知っているのにこのコマンドを使用して下さい:

神託ユーザからのプライマリゲートウェイ:

```
echo $ORACLE_SID -> output should be "primedb"
```

神託ユーザからのセカンダリ ゲートウェイ:

```
echo $ORACLE_SID -> output should be "primstdb"
```

問題

アクティブな、スタンバイ `datbases` が同期化から互いになると主な本部 GEO HA スイッチやフェールオーバー/フェールバック プロシージャは失敗します。これはプライマリという結果に終り、どちらかへのスタンバイ `datbases` は同時にアクティブまたはスタンバイになります。

トラブルシューティング

ソリューションに従う前に基本 `troubleshotting` ステップを実行できます:

1. プライマリとセカンダリ主なセントラルサーバ間のネットワーク接続やレイテンシー 関連問題をチェックして下さい。
2. データベース関連 `ORA` エラーを検出するためにこのデータベース ログイン プライマリをチェックして下さい:

```
<database_home_directory>/diag/rdbms/anadb/anadb/trace/alert_anadb.log
```

3. プライマリおよびセカンダリ データベースの open_mode、current_scn およびスイッチオーバー ステータスをチェックして下さい。

```
SQL> select open_mode from v$database  
SQL> select current_scn from v$database  
SQL> select switchover_status from v$database;
```

4. データベース複製のための根本的な原因は大抵ネットワーク通信問題 between プライマリおよびセカンダリ 主な中央データベース、破損 データベースまたは similiary データベース 関連エラーである可能性があります。

解決策

ステップ 1. 両方の ORACLE_SID をプライマリ および セカンダリ ゲートウェイ/データベース確認して下さい。

プライマリゲートウェイ/データベース ORACLE_SID = primedb

セカンダリ ゲートウェイ/データベース ORACLE_SID = primstadb

、プライマリかセカンダリ ゲートウェイの ORACLE_SID がの上記されるようになかったら、正しい SID を設定するのにこのコマンドを使用して下さい:

```
setenv ORACLE_SID = <value>
```

注: ここに <value はプライマリかセカンダリに > = primedb か primstadb 基づいています。

呼び出します。 sysdba としてアクティブな、スタンバイ データベース ログインでディレクトリパスをデータファイルに見つけ出し、ログおよびアーカイブ ログ ログ・ ファイルをやり直して下さい。

これらのコマンドを利用して下さい:

データファイルを見つけるため:

```
SQL> select name from v$datafile;
```

再実行ログファイルを見つけるため:

```
SQL> select member from v$logfile;
```

アーカイブ ログを見つけるため:

```
SQL> show parameter log_archive_dest_1;
```

ステップ 3 ステップ 4. に説明がある正しいシナリオを識別した後データベースを再製するために、正しい構文のこのスクリプトを実行して下さい。

```
sh PCoracleADG.ksh [PRIMARY] [STANDBY] [DB_TO_BE_DROPPED] [SYSTEM_PASSWD] [ORACLE_BASE]  
[ORACLE_USER] [ARCHIVED_LOG_LOCATION] [ORACLE_DATA_FILES_LOCATION] [REDO_LOG_LOCATION]
```

注: スクリプトは \$ORACLE_BASE/standby フォルダおよび必要の下で神託ユーザとして動作するコピーされます。

ステップ 4. セットアップの現在のステータスのシナリオを識別し、それに応じて続行して下さい:

注: 一例として HA1 がプライマリゲートウェイ/データベースであり、HA2 がセカンダリゲートウェイ/データベースであることが仮定されます

シナリオ 1: HA1 はアクティブで、HA2 のスタンバイ データベースを再製する必要があります。これらのパラメータを利用し、HA2 のステップ 3. で述べられるスクリプトを実行して下さい。

```
PRIMARY = primedb
STANDBY = primstdb
DB_TO_BE_DROPPED = primstdb SYSTEM_PASSWD = use Step 5 ORACLE_BASE = /orahome/oracle ORACLE_USER
= oracle ARCHIVED_LOG_LOCATION = output of 'show parameter log_archive_dest_1;'
ORACLE_DATA_FILES_LOCATION = output of 'select name from v$datafile;' REDO_LOG_LOCATION = output
of 'select member from v$logfile;'
```

シナリオ 2: HA2 はアクティブで、HA1 のスタンバイ データベースを再製する必要があります。これらのパラメータを使用し、HA1 のステップ 3. で述べられるスクリプトを実行して下さい。

```
PRIMARY = primedb
STANDBY = primstdb
DB_TO_BE_DROPPED = primedb
SYSTEM_PASSWD = use Step 5
ORACLE_BASE = /orahome/oracle
ORACLE_USER = oracle
ARCHIVED_LOG_LOCATION = output of 'show parameter log_archive_dest_1;'
ORACLE_DATA_FILES_LOCATION = output of 'select name from v$datafile;'
REDO_LOG_LOCATION = output of 'select member from v$logfile;'
```

ステップ 5 <SYSTEM_PASSWD> を調べるのにこのプロシージャを使用して下さい:

SU - HA1 または HA2 のプライム記号

グレップ Embedded_SYSTEM_PASS= インストール/conf/.db.conf

たとえばそれに Embedded_SYSTEM_PASS=90f8006cd6bc0dde があれば、そして:

- Java - CP インストール/utills/encryptionUtil.jar EncodeDecode 復号化 90f8006cd6bc0dde。
- 主な本部はステップ 4. で SYSTEM_PASSWD として使用される出力ストリングを戻します。

検証

プライマリおよびセカンダリ主なネットワーク ゲートウェイのデータベース 確認:

1. 再実行ログファイルの数および名前がアクティブなおよびスタンバイ データベースに同じであることを確認して下さい。
2. アクティブなおよびスタンバイ データベースのデータファイルの数およびサイズが同じであることを確認して下さい。
3. スタンバイ データベースの電流 SCN が一次データベースの scn に追いつくことができることを示すのに両方のアクティブなおよびスタンバイ データベースのこのコマンドを使用して下さい:

```
sqlplus / as sysdba
SQL>select current_scn from v$database;
```

4. database_roleof アクティブデータベースがプライマリであり、スタンバイがデータベース LOGICAL_STANDBYであることを確認して下さい。

```
sqlplus / as sysdba  
SQL>select database_role from v$database;
```

5. アクティブデータベースの open_mode が読み書きである READ ONLY との適用しますスタンバイ データベースであることを確認すれば。

```
sqlplus / as sysdba  
SQL>select open_mode from v$database;
```

6. アクティブの switchover_status がスタンバイにあり、スタンバイ データベースで許されないことを確認して下さい:

```
sqlplus / as sysdba  
SQL>select switchover_status from v$database;
```

7. アーカイブ ログが転送されて得ること検証して下さい:

Activedatabase:

```
SQL> alter system switch logfile;
```

スタンバイ データベース:

新しいファイルが ~/arch で作成されるようにするためにチェックして下さい